明治三十七年五月七日第三種郵便物認可
大正十年四月一日發行(毎月一回一日發行)

THE Y.W.C.A. MONTHLY

女子青年界

女子青年界第十八巻四月號

四月號

Y.W.C.A.

要目

日本基督教女子青年會發行


消化と毒けし
仁丹
金言
確實は正理の父にして公道の附なり
ポープ
「桃から生れた桃太郎……」
お父さん今日はい、声が出ませう!!
(父)仁丹をたべましたね
仁丹

第十八卷第四號

女子青年界目次

大正十四年三月號

「診察毎朝及毎夕 但祭日及日曜之他」
院長診察 月、木、金、午前及午後六時
林、峯間兩副長は目下當院に在勤

東京市麹町區三番町三十番地（市ヶ谷見附內）
電話六二番 番町五一六番

東洋內科醫院

院長 醫學博士 高田畊安

電話ちがさき二番

南湖院

神奈川縣茅ヶ崎海濱（從停車塲半里）
河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤
院長診察 土曜日午後 入院診後應需
「診察毎朝 但祭日及日曜及土曜之他」

NAKAYAMA SHOTEN.

IVORY CARVER.

Manufacture of

Damascen Ware, Bamboo Sticks Wooden Works & Japanese Curios.

No. 27, Bentendori Nichome, Yokohama.

TEL. NO. (HONKYOKU) 597

横濱市辨天通二丁目
二十七番地

美術品並ニ雜貨直輸出 卸小賣商

中山商店

電話本局五百九十七番

診察 毎夕五時——七時（日曜、祭日休）
姙婦、乳兒、相談
入院 姙婦、產婦
保育 幼兒晝間保育（早朝——夕暮）

東京市本所區柳島梅森町五十五（錦絲堀終點下車）

賛育會本所產院

電話本所六〇三〇番、振替東京三九〇〇〇番

會員募集
通常會員毎月五十錢——一時金百圓以上
特別會員同 二圓——同 三百圓以上
維持會員同 五圓——同 千圓以上

理事長 醫學博士 木下正中

FURS & MILLINERY

D. KOMEYA,

Prop. C. YAMAOKA

WHOLESALE and RETAIL

A Largest collection of Furs, Coats, Stoles, Muffs, Slippers, Brocade Linings & Feathers.

Water Color Pictures.

FUR DEPT.
No. 3 & 4, Benten-dori, Itchome, Yokohama

PICTURE DEPT.
No. 14, Bentendori, Itchome, Yokohama

SUMMER BRANCH
Karuizawa, Shinshu

貴婦人令孃用

毛皮コート 襟巻 マフ スリッパー 羽毛
絹裏地 水彩畫類 其他毛皮製品種々

何れも最新流行形いろ〳〵取揃へてありますから多少にかゝわらず御用命の程御願上げます、又た御贈答品としては最も好適品であります、御注文も御好みに依り入念調製いたします。



横濱市辨天通一丁目三、四番地
コメヤ號 山岡商店
電話長三三七〇

東京市京橋區南金六町一番地
コメヤ號 山岡商店
電話銀座一〇二五

夏期出張所
信州輕井澤

貴婦人紳士御愛用美髮料

ドクターペリース

ヘーアトニック

一瓶 壹圓廿錢

Dr. Perry's Hair Tonic

起床時ノ一滴ハ:ふけヲ去リ拔毛ヲ止メ不快ナルかゆみヲ治ス

東都唯一外人經營化粧料藥品店

コロンビヤ蓄音機レコード東京代理店

東京市京橋區銀座尾張町

ホスピタル、ファマシー

銀座藥品部

電話銀座一五三五番

The Hospital Pharmacy


百萬圓でも
君の强健な其の胃の腑を百萬圓出すから僕に賣つて呉れ給へ……と言はれた處で是ればかりは出來ない相談。けれども玆に良法あり、金廿錢を投じてホシ胃腸藥を求め常に服用試みられよ。如何なる胃腸の患も直に治つて百萬圓でも買へない强健な胃腸に忽ちなれる
▲定價 金五十錢一圓 試用金廿錢▼
胃病良藥
ホシ胃腸藥
東京京橋南傳馬町
星製藥株式會社

日本語教授法講習

〔講師　松宮彌平〕

時

大正十年四月十六日ヨリ六月廿五日
迄毎土曜午後二時ヨリ

所

本郷區弓町壹岐坂本郷教會內
日本語教授法研究會教室

申込

可成至急牛込區田町二ノ廿一本會
へ。規定ハ申越次第送呈

この講習の目的は外國人に日本語を教授せんとする方及教授せる方の爲に教授の方法を實際的の方面から講習するのであります。既に講習修了者百餘名に達し現に全國各地に渉つて日本語の教授に從事して居ります。又此の教授法は日本語のみならず外國語の教授にも應用されて效果を收めつゝあります。

牛込區市谷田町二ノ廿一

日本語教授法研究會

女子青年界 第十八巻四月號 大正十年四月一日發行

會説

人生の分水嶺

河井道子

「花羞かしき處女がためらひつゝも溪流と小川との落合ふ瀬に立ち、行末を煩ふ其姿」との一句は、僅でもロングフエローの詩集を讀んだ者には、戯談にさへ引用される程の常套語となつてゐます。それといふのも青年期には必らず此分水界があつて、何れにぜんかと迷ふ其心理が餘り適切に詩人によつて歌はれたからでせう。たゞに青年時代といはず、卒業前後と云はず私共の一生には此分水嶺に立つ時が一度ならず二度ならず、幾度となく繰返され、其度毎に何れにせんかと思案したり苦しんだり祈つたり相談したりするのです。

人生の良き戰をたゝかひ、將に天國に飛躍せんとする一老翁が其の子女を呼び集めて、「卿等もし各自の職務に於て最早奮闘を要せず、苦痛を感ぜぬ時の到らば、是即ち其職を去り他に轉ずべきの秋と思ふべし」と云はれしよし、何たる意味深き警語でせ

う。何故かとお問ひなさる方があるならば、左にお答へ申ませう。

何によらず自分の出來る範圍のことのみ爲して居れば、容易には相違ありませんが、進歩はありません。六ケ敷といふ所に一生懸命になる刺激が出て、それによつて進むのは分りきつた道理です。所がこの明らかな道理を實行することの困難は非常なもので、其實行を遂げる人の數は多くはありません。人格を築き上げるといふのは全く此眞理を實行するに依つて來る結果であります。それ故、あの人は人格が高いとか成功したとか云へば必らず奮鬪努力を斷えずして、平易無難を選ばなかつたとの意を顯して居ます。ことによると普通の人々には受取れぬ程馬鹿らしく思はれる事でも敢てしなくては、人格の階段は昇ることが出來ません。

爰に一女史がありました。此方は賢明な性で、早くから大學の教授となり、追々其位置は上り、名望は加はり、誰でも羨む位になりました。然るに彼女の友人等は彼が其の置位を捨てゝ外國傳道團に加はるとの風説をきゝ、非常に驚き正氣の沙汰にあらずと忠告しました所、此女史が答へて「私は今の位置に居ると俸給は自然と上りますから老後の心配は入りません。加之に、今教授する科目は私の得意な學科であるし、教授時間は僅で勝手に讀書は出來、好きな講演會、音樂會には度々行けるし、同趣味の人々と交際して見聞を廣める事も出來、何一つ不滿の點はありません。然し此まゝで行けば、私は勝手氣儘な修養道樂者となり、人格は養はれず、人間としての價値を廉價しますから、もつと勉勵が入り奮鬪の必要な六ケ敷い職業に轉じます」と申されたさうです。聖書に

窄き門より入れよ亡に至る路は廣く其門は大なり

此より入るもの多し、命に至る路は窄くその門は小し其の路を得るもの稀なり。（馬太傳七ノ十三十四參照）蓋生命を全うせんとする者は之を失ひ、我がために其の生命を失ふ者は之を得べければなり、（同十六ノ二五）とあるはこの邊の消息を含んでゐます。

何方にせんかと煩悶する場合に誰かゞ此方とか其方とは云ふて下さるとよいがと、迷ふのは屢々各自が經驗することとです。勿論經驗に富んだ先輩の指導を仰ぐことは後進者のすべきことであつて、當世のやうに青年が何事でも自由の穿き違へをして年長者を「古い」の一語で顧みないのは實に悲しむべきことであると共に、大なる間違であります。それかというて自分に何の見識もないのに唯々諾々と他より云はれる通りにして居ては、毎日の樣に方針を變へねばならぬことになります。私共は神の前に只獨りで決定的の所置を採らねばならぬ場合に遭遇します其時にやさしい面白い方の路をとれと親友の聲がしたり、名與の廣き門の方に入れとの先輩の勸めが耳にひゞく時、其等を斷然退けて、目前には惡戰苦鬪が見えても、正しい道、窄き門に入らん爲に努力する時には、必ず神が力をそへて、人生の大進步に入らしめられるものであります。此等を考へて眞の勝利を得んためには、あるものをも捨てゝかゝつて欲しいと若き方々に願はずには居られません。唯收入の多額な位置をのぞんだり、面白いこと容易な仕事のみを選擇して居ては、到底榮ある一生を送ることは出來ません。是非エス・キリストに倣つて、常に世に勝つ日常生活を致したいものであります。

汝の道をエホバにゆだねよ。
エホバを待ち望め、雄々しかれ汝の心を堅うせよ。必ずや
エホバを待ちのぞめ。

復活の質的眞理

森明

キリストは死より甦りしと宣傳るに汝等のうち死より甦ること無しといふ者あるは何ぞや。もし死より甦ることなくばキリストも亦甦らざりしならん。キリストもし甦らざりしならば我等の宣るところむなしく又汝等の信仰もむなしからん。且我等神のために僞の證をする者とならん。我等神はキリストを甦らしゝと證すれば也。もし死し者よみがへる事なくば神キリストを甦らしむる事なかるべし。もし死しもの甦ることなくばキリストも甦ることなかりしならん。若しキリスト甦らざりしならば汝等の信仰はむなしく汝等は尚罪に居らん。又キリストにありて寢りたる者もほろびしならん。若しキリストに由る我等の望唯此世のみならば凡の人の中にて最も憐むべきものなり。然ど今キリスト死より甦りて寢りたるものの復生の首となれり。

エスの復活と我等の信仰生活との間には多くの考うべき問題がある。第一我等の信仰生活の基礎は實に此事實の上にある事を思はねばならぬ。若し彼甦ることなくば我等は最も憐な部類に屬すべき人間である。ポーロの信仰は、彼がダマスコ途上、復活せるエスに見えし經驗に始まつて居る。之が彼の信仰生涯の第一歩であつた。若し甦りて今尚生き給ふエスの聖靈なくば我等の信仰は其の置所を失ふわけである。然らば此事實は果して事實であらうか。我等は之を承認し之を信じ得べきか。是は第二に來る問題である。

今日の科學は靈魂不滅に對して差程手强き反對は有して居らぬ。心理學、生物學はむしろ宗敎の辯護者の如くに見える位いである。然しエスの復活は心理學の所謂「死後の存續」であらうか。我等は死は人生の決勝點にあらずとの見解より此事實を承認すべきであらうか。私は然か思はぬ。エスの復活はもつと根本に至らねばならぬ事實である。

死といふ事實は誰も免れ得ぬ事であるが、之に向つて哲學的の疑惑を感じたものは餘り多くはない。生物學上「罪」と「死」の關係に就て注意を傾けた學者も二三余の知れる中にも在るが、然も明確に死の因て來る根本源因が罪の結果であると考うるに至つては獨り基督者あるのみであらう。而して此考へはエスの復活を解く鍵である。

無罪なるものには死はない、然るにエスは死に給ふた。此事は贖罪の根本問題に自ら關係がある。彼は實に自ら罪人の受くべき刑罰をうけて死し、而して終に之に打勝ち給ふたのである。彼の復活は、故に無罪なるもの、死に勝ちしもの丶復活である。

エスの此の復活に就ての信仰に二種ある。一は彼の靈魂、人格のみの復活を信じ、他は肉體そのもの丶復活を信ずる。聖書の記事を見ると何所にもエスの死骸の事は記してない。其墓は空しかつたと記してあるが、我等は今靈も肉もエスの全體としての復活を記念したいと思ふ。人類の罪になやみ、神の前に自ら之を背負ひ、罪人の如く罰せられ而して終に許されて甦りしエスは、實に全く新しき體を具へて甦られたのである。彼の靈的現在を信ずる今日の我等にとりて、エスの人格的復活を信じ得れば足るであらうか。否我等の生活が物質と靈との生活である以上、我等の信ずるエスの復活は又全人的のものでなければならぬ。而してエスの肉體が復活したことに就て我等はメタモフオシズの法則を聯想する事が出來る。物質は決して變化し得ないものではない。自然界に之を聯想させる事實がある。エスの復活は實に物質と精神との復活であつた。

エスの死と甦りとは何故罪人の贖罪に關係があるか。之は次に考うべき問題である。罪は恰も精神的の脚氣病の如きで、人の靈魂の感覺を失はしめるものである。罪のなやみをも神の怒をも感ぜしめぬ。エスは之等を深く感ぜられ經驗せられた。彼程自ら罪なくして而も深く之を感ぜられた方はない。罪の恐怖さへ知らぬ人類が如何してその謝罪をなし得や

うか。之をなし得るものは唯エスのみである。

死は聖い生命とは無關係である。生命に不純なるものがあるから死が來る。エスの人格は聖き生命そのものであつた。實に復活は當然である。故に彼の復活の力は無罪といふ最も淸らかな本質から流れ出るものである。エスの力は品性の力、聖き神を怖れ賴み、なつかしむ生命の力である。決して唯の力ではない。此所には量でなく質の關係がある。死は如何なる量も打勝ちえぬ。

我等は斯くの如くエスの復活を信じ、彼に在りて我等の來世をも信ずる、而して啻に遠き將來のみならず現在我等の心の復活をも信ぜざるを得ない。人の悔改の力は何處から來たか實にエスの十字架と復活との力が加はる事によつてなされるものである今日只今我等は前非を悔ひ、神にエスに又人に對して其の聖き力により根本から悔改する事が出來る。聖靈の恩化により實に復活し得るのである。而して聖靈はエスの十字架と復活との聖い事實より來る。

今日のキリスト教徒の多くが希望と力とに充ちて居ないのは何故か。エスの復活の精神に遠いものがあるからである。今のキリスト教は物質勢力や政府の後援や學問の工風等に賴り、質の深からん事よりも仕事、事業、效果、能率をあげる事等に餘りに急では無かつたか。貧しき人々に心を用ゆるよりも金滿家の助けを得る事に汲々として居るのではあるまいか。キリストと其復活の力とにのみ賴るべき基督者が其信賴を變へて來た事、之が歐洲戰爭の原因であらう。我等は斯くの如き見地より論議せられた多くの貴き書物を散見する。今日我等が眞に復活し得るものならば又眞に地上に於ける「物質」を其本來の貴さにかへし得るものならばキリストによりてのみなし得る。彼の前に節操を重んじ、彼にのみ賴る精神にたち歸らねばならぬ。先づ量より質を重んずる信仰に生活に歸らねばならぬ。基督を信ずる我等の體驗に於て、「質」をして「量」を支配せしめねばならぬ。我等が復活節の禮拜に於て希ふは只此純粹なる精神である。我等の斯る心の曙、其處に「イエス實に復活て我等に現はれ給ふ」のである。

英　文　欄

WATERED GARDENS

Once on a very hot day I went with a friend to visit a home to which we had never gone. We had to climb a long hill through the woods, and it seemed to us that we would never reach our destination. But, finally, after we went up a little rough stairway made of stones half-buried in the ground, we came out upon a great level space whose beauty hushed our talking, for all about us was the beauty of a lovely garden. Green grass, soft and velvety, spreading trees, and mass of color in the flowers and shrubs; over there, pink azaleas and white dogwood, graceful bridal wreath and big bold peonies, over there, a trellis of roses, and beyond that a bed of narcissus and purple iris, - all this seemed like a miracle in the midst of the woods. It was all so fresh and quiet, that we forgot that we were hot and tired, and walked eagerly toward the glory there. We wanted to reach out our arms and make it a part of us, to live with it always near. How could it be so beautiful, with such a sweet fresh beauty that was like a drink of cool water?

We went past the rose trellis and went through a little green hedge, and here was a little holy place! For there before us was a bubbling emptying spring into a little pool, and in the shade of the trees, among many fresh green leaves, were violets! As we stood there silent, our hostess came through the hedge and greeted us happily.

"Oh!", we said, "what a wonderful, garden, so fresh and sweet, why! it's like a bit of heaven!"

She laughed, "Yes, now it is lovely, but we have worked hard to make it so, for it was just rough woods when we came. Our gardener works constantly, bringing in new things to make more color, cutting away the ugly places, and watering constantly. He is like a father to all the plants. He waters them every night. Here by the spring, of course, there is living water, and these violets are always fresh and sweet, and I'm sure that down underneath the ground the spring is always feeding the roots of all the trees in the garden. It's a well-watered garden!"

Then I remembered what Isaiah said of people who are really living lives of unselfish service, "Ye shall be like a watered garden". Like this garden, with trees to offer shade on a hot day, flowers to offer fragrance and beauty to a tired heart, and water to give to those who faint with weariness? Can I be like that?

Once a woman who had been living an unquiet, wrong kind of life, met Jesus at the well when she went to draw water. He looked at her and saw the lack of quiet beauty in her life, saw in her eyes that she was not happy, and He said to her, "I will give you a drink of living water so that you will never thirst again!" She looked at Him in amazement and went away. Who can do that? Jesus Christ can, He can give us that living water that will make our whole life like a fresh, sweet garden, shining with colors of happiness and joy, fragrant with kindness and service, living and eternal in love and beauty of soul. How foolish we are to let our gardens get dusty and dry, to fail to bring in new colors, to forget that God can make us "blossom like a rose".

"Ho! everyone that thirsteth, come ye to the waters"!

高等教育について

川戸環

昨今、何れの專門學校も入學受驗者で門前市をなして居る。そしてその試驗は合格して悦ぶものよりも不合格で悲しむ人を夥しく造り出すために設けられた制度の如くに見える。一體かく難儀してまで、我等女子は高等教育をうけねばならぬのであるか、種々の理由から高等教育を受けないでもすむ人達が可成り澤山であることはいふを俟たぬ。高等教育を受くる能力と義務とに目覺めた若き女子の中にも、學校に入らずして、獨修を以て志望の教育を立派にうけ得る少數がある。然し多數は自己の内に潜んでゐる價値ある資質を啓き且つ伸ばすために、學校のやうな機關や組織を要求して居るのである。前者にしろ後者にしろ、高等教育を受くる能力と熱心と機會とを賦與された人は仕合せである。

人が人の作つた制定に依りて、高等教育の機會を剝奪される場合多きは憂慮に堪へない事である。我等極力高等教育の機會が階級別や性別によつて決せらるゝことなき時代を來らすべく盡力したきものである。斯く努むるかたはら尚ほ我等のために開かれた高等教育の機會は、學校にもあれ。研究會にもあれ、獨學にもあれ、充分利用して我等の生命をばより豐富に、より深くなし得べき便利を得たきものである。

高等教育の機關を通過することが、結婚や職業の人選條件らしく見ゆる場合もある。然れど機關は遂に徑路手段たるに過ぎない。若し機關を經ずして、

高等教育の我等の生命に與ふる理想的賜物を獲得する事が出來るならば、それでもよいのである。

さらば其の理想的のものとは何であるか。英語を讀めたり話せたり書けたり、和漢文に通じたり、科學に精しくなつたりすることそれ自身がすでに高等教育の目的なのであるか。斯かる知識は固より我等の追求すべきものである。然し知識は眞の智慧(wisdom)を生まねばならぬ。知識若し我等をたゞ物識りとなすに過ぎないのならば、我等は字引と何等の差別がない。知識は行き届いた常識、深き洞察力、廣き眼界、鋭敏なる判斷力、強き意志、高尚なる趣味、溫き情愛、快活なる實行力などを發達させて呉れべき筈のものである。

勿論これらのことの源泉、其の動力は、人間と人間との交渉から始まるものでない。自ら最上なる人格の所有者であつて、然も我等人類を愛し、我等のために驚くべき犧牲を吝しまず、我等の人格を新に造り、愈いよ／＼發展聖化し行くことを許し給ふ所の神を信ずることがないならば、學問や知識は極めて淺薄な程度に於てのみ我等の人格を助けることが出來るに過ぎないであらう。

人生の目的は神より與へられた自他の人格を完成し、神の支配が世界に行き亘るに至る日を促進することである。若し學問知識が此目的からはなれ、若しくはそれを妨ぐるやうなことになるならば、由々しき大事である。人は誰しもパンを得る途を講ぜねばならぬのであるから、職業教育も必要であらう。我等の家庭生活が今より簡便に、今より衞生的に、今より愉快に、今より高き能率を以て營まれるやうになるのは、知識に依る所が多いのであるから、家政學もよいであらう。然し要するに職業に備ふること、家事に通ずる事などは高等教育の副産物であつて、其の當の問題ではない。輕々しく看過すべきものではないが、無暗と之に狂奔すべきものでもあるまい。

高等教育の主賓は人格の養成である。社會奉仕で

ある。それを人生の目的なる大問題と結びつけて考へて見ねばならぬ。而して知識がこの目的を翼賛するものであることや、信仰が其の動力である事を忘れてはならぬ。

エホバを畏るゝは智慧の始めなり。（箴言）

豫言はすたり方言は止み知識もまたすたらん。されど信仰と望と愛とこの三つのものは常にあるなり　（コリント前書）

"Simple living,
high thinking"

バークレー夫人より

これはＹ夫人（もと當會の幹事であったアトネ嬢）から某所宛書信の一節

昨年はケムブリッヂ、オックスフォード初め諸所の大學や學校で、日本及萬國傳道の話をしましたが、いつも盛會で愉快でした。

私達夫婦は、グラスゴウの萬國學生大會にも出席しました。代表者總數三千名、この中二百名は外國の（重に歐羅巴の）大學生でした。胸の躍るやうな大會でした。二千人からの青年の會衆に顔を合せ、讃美歌や詩篇の合唱をきく丈でも鼓舞されました。説教は非常によく、多くは、神の國の爲の奉仕と犧牲とを求めたものでした。

二百の外國大學代表者と、二百の英國大學代表者とが會食する爲に、無料の茶と食事とが、毎日備へてありましたが、これの一切の世話役は、大學を出たばかりの、まだ二十二三の一人の婦人でした。この婦人は違つた人達を手傳ひに賴んで來ては、毎日からして四百人の學生をもてなしたのでした。

日本の代表者は三四人ありました、志立やな子さん（東京女子青年會の志立夫人の令嬢）もその一人でした。

プレシコフスカヤ（抄譯）（三）

森田松榮

それは大學生が設けた食堂で、月極めで食事を供給するのであつたが、大學生以外の者も出入し得た議論や討論に熱中して、胃よりも脳に食べさせる方に氣がとられてゐる樣な大學生の中に、カザリンは昔風な着物、とつくに流行のすたつた帽子で出かけていつたが、彼女も學生達も裝束などには丸つきり構はなかつた。

食堂は午後一時から五時迄開かれてゐた。彼女はそろ〳〵食べながら學生を觀察した。程經て彼女は自分の姓名と、自分と妹とが宿つてゐる旅館の名を書いて、これぞと思ふ學生達に、「行らつしやつて下さい。お話しませう」といひ乍ら與へた。

其夕方五人の學生が來た。彼らは淡泊な同情深い青年で、書物許りでなく、人生の研究者だつた。彼女はすぐに突込んだ「なぜあなた方は何にも爲さらないんです？ロシアの民衆の大半が、頸には軛を負ひ、戸口には狼に迫られ、饑へてゐるのに、なぜあなた方は懷手をしていらつしやるのです？　なぜあなた方は、學校を、事實から自分達の眼を隔てる爲に用ひるのです？」

みんなは一齊に答へた「私達は懷手をしてゐますけれどどうすればいひのです？」

けれ共即答は與へられなかつた。彼等の中には革命主義者に知合があつたので、カザリンは追々に其等の人々に紹介された。

間もなく彼女は家に呼び還された。其以後彼女夫

妻と改進主義者の一小團は、政治的運動によつて、農民の爲に待遇の改善を獲得すべく、大に努めた。「政府に反對して立つ前に、まづ其政府を徹底的に調査しやうとしないのは、取るに足らない愛國者である。私達は法律や勅令を精査したところ、農民の地方參政權に關し長くうつちやりばなしにされてたものを發見した、そこで私達は、農民に、彼らが既に所有してゐた此等の權利の使用法を示し始めた。」

カザリンは農民の集會で有力な辯者たることを示した。彼女の聲は明晰で力がある上、農民に呑み込める樣な言葉で話す事ができた。彼女は偉大な人格と偉大な心思とから常に流れる力を働かせた。

農民は地方選擧にあたつて、自由主義の人々を官吏に選擧した。此等の人々は農民に對し絶對的公平を以て一切の事件を判決し、貴族の壓制に對し、彼等の立法上の權利を保護した。ところが一層專制的な地主は、不正な利權獲得の源にしてゐた地位から逐はれた時、自由主義者の一團を、政府反對の陰謀團として内務省に告發した。自由主義の官吏等は一年足らずの間に免職されたり、シベリヤに流刑にされたりしたが、カザリン夫婦も警官に監視される身となり、農民の爲に二人が設立した學校と銀行とは閉鎖された。

カザリンが農民に向つてした演説等は嚴しく調べられ、官憲は彼女の父に辯明を求めた。父は、「農民が彼らの權利を一層明きり會得するやう、新法律を彼らに説明することを、娘は義務と感じてゐた。」と云つた。知事は冷淡に「我々は此處には使徒なんか要りません」と答へて、彼らが農民問題に與さはることの少ない程、彼ら自身の爲にも、農民の爲にもいひのだと仄めかした。

此經驗はカザリンをして、重大な改革が行はれる樣になる前に、政治の現狀の變革の必要な事を悟らしめた。ロシアの到る處、自由主義の男女が、平和な手段で農民を敎育し向上させやうとしてゐた計畫は同一の運命に遇つてゐた。農民に、農民自身の立

法上の權利を敎へた爲に犯罪者として處罰された彼らは、專制政治が宛然腐敗の一大組織で、密偵や秘密警官によつて、其犧牲である農民が、人間らしく考へたり行動したりし得るものを、少しでも敎へられない樣にと、血眼で見張つてゐるのを知つた。

彼女は、農民狀態の改善を希望してゐた貴族らへの紹介狀を得て、彼らの領地を巡訪したり、學校や協同工場に彼らの事業を研究しながら國内を旅行した。彼女は經驗と、人生に就ての知識を增したほか何の獲る所なかつたことを感じつゝ家に歸つた。

この時には革命の精神はかなり起つてゐた。ネカエフといふ改進主義者は、革命主義者の一團を集めてゐた。彼等は露顯して捕縛されたが、一八七一年の彼らの審問は、自由の爲の長い戰に於ける最初の大事件であつた。政治犯流刑者の行列がシベリヤ街道に見え始めた。かゝる間に彼らの革命的文書は公刊され、全ロシアの自由思想家らに讀まれた。

カザリンはキエフの革命團體に參加した。彼女は彼女を敬愛する靑年男女の一團に程なく擁せられた就中後に有名になつたマリア・カリエンキナは特に彼女の親友だつた。彼女は村の小學敎師だつたが、ネクラゾフの農民の歌に鼓吹されて、熱烈な革命主義者となり、キエフに出て、當時最も進歩せる革命思想を體得した。彼女は物靜かで、氣が柔しくて、勤勉で、而も大事に際しては誰よりも膽が据つてゐた。彼女は又不言實行の人で、彼女に秘密を委ねる事は、墓に埋めると同樣安全だつた。彼女は奢華な方で、金髮白皙の愛らしい娘だつた。多くの靑年は彼女に思をよせたけれど、彼女は少しも心を牽かれなかつた。彼女が男にとりあはない事をカザリンが話した時、彼女は「私の戀人は革命運動」と答へた。實にマリアは小羊の如く柔和に、獅子の如く勇敢な娘だつた。

細々煙つてゐた革命の暖床だつたキエフは、今や將に破裂せんとする火山となり、決死の靑年が充滿した。ロシア全國を風靡してゐた「民衆」への運動

はキエフが最も高潮だつた。

「民衆」への運動は、其性質を變じた。農奴解放後有産階級の數千の男女は、「如何にせば民衆の爲に最もよく盡し得べきか」と自問した結果、唯一の方法は、「行きて貧しき人々の中に入り、彼等と等しき生活を爲すにあり」と斷定した。クロポトキンは云ふ

「青年達は、醫者、醫師の助手、敎師、村役場の書記、農業勞働者、鍛冶工、木挽等になつて村々に行き、農民と密接な生活をすることを努めた。少女等は敎員檢定試驗に合格し、産婆術或は看護法を修得し、最も貧しい人々の爲、全く獻身して、村々に幾百となく行つた。

「此等の人々は其心に社會改造の理想も、革命の理想も全くなしに行つたので、農民に讀み書きを敎へ他の事にも興味を有たせ、醫藥上の助力をし、其暗黑と悲慘とから彼らを救ふを目的し、同時に、より善い社會生活といふものに就て、農夫一般の理想を知らうとしたに過ぎなかつた。」

此運動は全然立法的で、公然行はれてゐたにも拘らず政府に睨まれて、農民の援助者たらんとした人々は手酷く壓迫されたから、彼らの多くは革命主義者となつた。此點に於てカザリンと其友人等の經驗は代表的なものであつた。

是に於て、貴族の多數をも包含してゐる夥しい人數は、農民の風をして、民衆中の最貧者に伍して生活し勞働し、密かに革命の準備を彼らに爲た。

彼女を永遠に家庭から奪ふべき、又投獄、拷問の揚句、十中八九は流刑か死に終るべき、革命の實際運動に、入るに先立つて、カザリンは親戚友人に最後の暇乞をした。三年前カザリンの學校が閉鎖され父が免職された時、彼女は主義の爲に決死の覺悟をして、當時既に其事を夫に告げ、夫の覺悟をもきいたのであつたが、夫には其丈の覺悟はなかつた。今や彼女は身を捨てる時が來たのである。夫は悲嘆に暮れた。彼は立派な人格の人だつたけれど、壓制の下にあつて、自由と闘ふ事の怖ろしい結果に向つて

進むのになかる可らざる金鐵の決意を缺いてゐた。彼女の家族は、彼女が程なく母とならうとしてゐた事を切言した。一方には、富と榮華と美名とに圍まれてゐる家庭の愛の生活があり、他方には、牢獄と流刑とがあつた。思ひ止まるのが義務だと多くの者は云つた。行くのが最大最要の義務であると、彼女は確く信じた。信じたから決心した。傷ましい心で彼女は一同と生別したが、以後其等の誰一人とも二度と逢はずに了つた。夫は、彼女がシベリアに流刑されてから程なく死し、兩親も世を去つた。

キエフではカザリン、マリヤ、及びカザリンの妹を中心とする「コンミユーン」として知られた一團が出來たが、これはキエフに於ける革命運動の中心で、ロシアの覺醒に深大な影響を與へた。

彼等は革命運動を進捗させて行く傍、生活費を獲なければならなかつた。彼等は自らビラを配つて、自宅教授をした。多くの家庭から依頼されて、カザリンは、女學校の生徒達を毎日忙しく敎へた。烈しい休みのない仕事で、彼女はいつも疲れ切つて、床に就いたが、閑な貴婦人でゐた時よりも丈夫になつた。「コンミユーン」の生活は單純で、儀禮や見せかけがなかつた。質素な生活と高尚な思想とが一日の暮しであつた。

「コンミユーン」の會員の家庭は、外觀上、他の家庭と別に相違はなかつたが、內部は殆別世界だつた多くの廣い部屋があつた、どれもが工塲の樣だつた一室には大工道具があつて、貴族が大工の弟子入して仕事をしてゐると、次の室には學生が靴の作り方を習つてゐた。會員達は快活で希望に滿ちてゐた。

其中にカザリンの從妹で、物の分つた博愛心の深い婦人が、カザリンに、自分の領地に來て、其所をカザリンの人道主義の運動の中心にして呉れと云つて來た。カザリンは訪ねて行つた。農民間に從妹の爲てゐた仕事は彼女を滿足させた。然し從妹に諾否の返事をする前に、自由の爲の戰士の領袖に接したいと思つて、ペトログラードに行つた。彼女が自分

の計畫をコヴァリークに話すと、彼は「カチンカ、あなたはもう隨分會社改革の事業をしてゐる。あなたが戰の眞中に飛込むのは、今が時ですよ。なぜ戰線に參加しないんです」と彼は云つた。彼は單なる慈善などゝいふ半端なやり方を侮蔑した。

ペテログラードでも、曾てキエフに於けると同樣彼女は一團の中心となり明星となつた。彼女の强大で單純な人格、愛嬌ある微笑、不撓の勇氣、あけつ放しの明瞭な元氣な談話は、あらゆる所で愛重された。彼女は集會を開いては、當時の緊急な諸問題を論議し、方法を決定し、一同の熱烈な思想をそのまゝ實行する計畫を立てた。彼らの多くは、後年革命運動で有名になつた人達であつた。

ペテログラード滯在中彼女は男兒を生んだ。其後彼女はキエフに歸り、弟の妻で仲善しのヴエラと住んだ。ヴエラ夫妻にカザリンの子を實子として育てて貰ふ約束が前以てしてあつたのである。此時カザリンの姉は腦病に罹つて、一番愛してゐたカザリンの名を譫言でよび續けながら死んだ。カザリンは女子達から愛せられたことをいつも誇としてゐた。

義妹ヴエラはキエフで病氣でゐたがカザリンの看病を受けて全快し、夫と共に旅立つ事となつた。カザリンは初めて子供と別れる辛さを味つた。外には馬車が來てゐて、せか／＼した二頭の馬が鼻息を荒くし乍ら、地面を叩いてゐる。ヴエラ夫妻は馬車に乘つた。カザリンは子供を抱いて出て來て、ヴエラに渡した。双方ともに暫くはたゞ無言。やがてカザリンはワッと泣き出すと、なだめ樣のない子供のやうに、しやくり上げて泣き續けた。

「カタヤ、カタヤ、どうしたつてことなの」

とヴエラは叫んだ。それでも母は泣き止まなかつたヴエラはカザリンの額にそゝくさと接吻した。馬車は石の上を音も荒く、どん／＼去つて了つた。

カザリンは目が眩々して胸がかき亂れてゐた。其眼は馬車の轍をみつめたまゝ、それが遠くに見えなくなつても、まだ後を凝つと見送つてゐた。晴

々した春の日だつたけれど、自分には冷たい秋が來て了つた樣な氣がした。

「私の心はメチャ〳〵に碎かれた氣がした。足は動かず、手は硬ばり、其場から動く事が出來なかつた。私は農民の爲に働きたいと初めて云ひ出した時受けた注意を憶出した。私がまだ少女だつた時皆は「まあお待ち、いまに結婚すると縛られるから、若い血は落着いてあなたの流れ小川は靜かな湖水とならう」と云つた。時が來て私は結婚したが、私の精神には何の變化も認められなかつた。私は民衆の爲といふ事を、前同樣に、否一層強く思つた。すると友達は「まあお待ちなさい。自分の土地を有つ樣になると、時間も氣持も其世話で一杯になるから」と云つた。私達夫婦は土地を買つたがそんな結果は生じなかつた。小ぽけな土地を全ロシアの廣漠たる土地以上に重んずる事などは到底出來なかつた。私の精神、私の確信は少しも變らなかつた。軈て又新らしい意見が友人から出た。「眞實にあなたは夫を有つても家庭を有つても變らない、然どお子さんの誕生と同時にあなたの革命の理想は死にませう。雲間高く大空を飛翔する爲に使つてゐた翼を、今度は子供を蔽ふ爲に使ふ樣になるでせう」と。私は子を擧げたあの子の中に私の青春が葬られて了つて、あの子が私からとられた時には、私の精神の火があの子と一緒に消えて了つたやうな氣さへした。が、さうではなかつた。子供に對する愛と、ロシアの革命及自由に對する愛との衝突は、幾晩も私から眠を奪つた。私は同時に母たり革命家たり得る事は到底出來ないことを知つた。この二つは同時に注意を分けることの出來る仕事ではなかつた。孰らも、人の全生、全犧牲を要した。かうして私は自分の子をヴエラと私の弟とに實子として育てゝ貰ふ爲にやつた。かういふ犧牲を要求されたのは、私のみに止まらない。ロシアの自由の爲に戰つた婦人達の中で、被壓制者の母たるよりは、正義の闘士たるを擇んだ人々は多くあつた。」

ジョコンダの微笑

小出正吾

「此頃の青年はどんな婦人を要求するか？」といふ御質ねに對して只今自分は落着いたお答への出來ないことを悲しく思ひます。若し次の貧しい手紙一つがその代用となることが能き得るとすれば讀んで戴きたく思ひます。

愛する我が少妹!!

　貴き微笑のジョコンダは三年の間我が室に居りて我が靈ひを慰めたり。我は今この懷しきジョコンダを汝の樂しき誕生の祝ひとして汝の机の前に贈る。愛する汝の悅びの日を心より紀念するために今兄が送り得る唯一つの品物はこの他になし。我は貴きジョコンダの微笑が汝の心に斷えず灌がれ、やがて汝の心に溶け溶り、汝自身の頬に流れ出でんことを祈るなり。

　少妹よ、靜かにジョコンダの前に座れ。我も亦三年の間彼女の前に座りたり。新しき朝の希望に滿されし時ジョコンダ我と共に微笑みぬ。働き疲れて歸り來りし夕、我が壁にジョコンダ我を慰撫せんとして待てり。

　あゝ貴き Mona Lisa Dlel Jocondo！

レオナルド・ダ・ビンチが四年の心血を通して生れ來し偉大なる生命！　四世紀の間、人々は彼女の前に立ちてその神祕なる微笑を凝視め

　こは永遠の謎ならずや？

と嘆き合ひぬ。誠にダビンチの心より生れ來し貴きジョコンダの微笑は不滅の謎なり。

愛する妹よ。
我は今こゝに永遠の謎を贈る。
靜かにジヨコンダの前に座れ。
ジヨコンダの瞳を拒くる勿れ。
ジヨコンダの微笑の一切を受け容るゝ時に汝は永
の友を得べし。
眞理、常に舊るしときく、而も眞理は常に新し。
ジヨコンダの如き女性の地上に多く住んことを
望む。
おゝ彼女の瞳を視よ。
風なき朝の日光の如く靜かに愛は灌ぎ來る。
ラファエルの「牧場の聖母」が眼を上げしかと
すら思へるときあり。
眞實の心の窓!!
深き靈ひの流!!
おゝ彼女の唇を視よ。
彼女、物言はず。
されど彼女は最も貴き言葉を語る。

「我は女
我が心は貧しけれども神の調べに歌ひ
我が見るものは美しく
我が手の觸るゝものは悅ばし
あゝ我が足は土に
我が髮は天に。
ジヨコンダは獨りなり。されど淋しくはなし。
孤獨のなかに友愛を抱き、寂寞のなかに法悅を
歌ふなり。
ジヨコンダを仰げば我は憶るゝベタニア村のマ
リアを憶ふ。マリア物言はずクリストの心に倚
る。
マリアの心は主の琴線に觸るゝなり。
心の歌に聲を合せて寄する友のあるは如何によ
きかな。　地上は愛の交響樂!!
愛する妹よ。
ジヨコンダを仰げ。ベタニア村のマリアを思へ。
心のヴヰオロンを調へよ。

村里より村里へ歌ひ歩きし巡禮詩人の如く、心より心へ御神の愛を奏でゝ歩め。

汝は女なり。男にはあらず。汝の聖きつとめのために汝の眞摯なる祈を捧げよ。

我は汝が僞りなく生れ來しまゝの汝――一個の人間たらんことを望む。

汝が何ものにも災ひせられざる健全なる女性ならんことを希ふ。汝が汝自身の貴き個性を僞らず。眞實なる心をもて朗かに歌はんことを願ふ。されど望み得ば、我は汝の個性が靜かにも強きマリアの如くありて、汝の地上生活はジヨコンダの微笑の如く貴く晴れやかに灌ぎ出されんことを希ふ。

愛する妹よ。

ジヨコンダの優しき手を見よ。

我は時として聖クララが白百合に水そゝぎ、

マリアの姉マルタが主の饗應のパンを燒き、

ルーテル夫人が愛兒を抱きし掌をば此手の中に感ずるなり。

貴きジヨコンダの心は黑土より萠え出し春草の芽、純朴にて、溫かに、優し。

僞らずして、ハンブルにて、強し。

彼女の胸の膨らみも我には遂に肉感を與へず。

健やかなる肉は媚女を超絕して母の如し。

ゝ愛する少妹。

我は貴きジヨコンダを送る。

我が祈りを共にうけ、兄の心を讀め。

こは汝の愚かなる兄が、汝の誕生を祝さんとて贈り得る唯一の喜びの品なればなり。

Leonard Dle Vinci の La Jocondo は目下佛國ルーブル美術館にあり。此畫が佛國に着きたる時大統領始め宰相大官名士總出にて此を迎へ盛んなる行列を以て Musse du Louvre へ受け容れたり。一度盜難にかゝりたる事あり、其後畫面は龜裂を甚しくせるものゝ如し。世界の邊土までもその寫眞は汎く廣められたり。其微笑は不可解なりと稱せらるゝも余はミレーの晩鐘と共に有ゆる家庭に見出されん事を希望する程、此畫によりダビンチの心に親近を覺ゆるなり。

ロモラの一生

村岸榮子

あなたが讀んだヒロイン中で一番好きなのがロモラかと問はれるなら、私ははつきりさうだとは言はれない。何故なら私が小説を好んで愛讀したのは既に過去の事で、この度此稿を書かうとするに當つても、何等新しい感激に滿ちた材料を持ち合せない所から、自然過去に於て私の腦裡に食ひ入つてゐた女性の中のあれやこれやを選擇した結果、比較的鮮明に多くの物が殘つて居るロモラを書いて見樣と思ひ附いたからである。一體私はその時には非常に深い感銘を以て作中の人物に共鳴はするものゝ、矢張りよみばなしのせいか程過ぎればけろりと忘れて了ふ傾向を持つので、是から筆を染めて見たいと思ふロモラに就てゞも、散漫な記憶を綴り合せる仕事なので着古した着物に新しい帶をしめた樣な、興醒めを感ずるに到るかもしれない。そして私はそれをひどく恐れる。然し私は始めてロモラを讀んだ時に殊に深い感激を覺えた事を今以て忘れない。それは卒業以前の事であつたが、その後間もなく結婚記念にと今一回通讀して一ケ月許り默つて飜譯をした位、それ程迄に當時の感激はかなりに深い物であつた。(これは今年中には新潮社から出る事と思ふ)それも今から數へれば五年前になる事であるから、私の周圍、環境、感情も相當に變化して來てゐるので、それが、ロモラが一番好きであるとはいへない理由となるのである。とは言へ、ロモラは過去に於て最も好きな女性であつたから、私は今でも相當な興奮を覺えつゝ、數言を記して見樣と思ふのである。

ロモラはエリオット女史の傑作「ロモラ」中に現れる主人公である。この小説は伊太利のメデイチ黨派衰亡の前後を背景として或は大宗敎家サヴヲノローラを起し、或は改革や陰謀を配置して、ロモラの不幸な家庭生活に結びつけたかなりに事件の輻輳した物である。

ロモラはフロレンス歴史に著名なバルディ街に住む老年の貧學者の家に誕生した。母は早くより逝き唯一人の兄は修道院に走り、目盲いて癇癪の強くなつた父は、殆んど現代とは沒交渉で只管過去の華かなりし全盛時代の追憶に生きた。この老學者にとつては我が事業の完成を期して居た息子の出奔は致命的な打撃、また絶望であつた。そして肉體の衰弱が目立て進み行くと同じ勢で彼の神經過敏は高まり、何かにつけての欝積した憤りが激しく迸り出ねば止まぬ苦痛を辛うじて可憐なロモラの慰撫に依て堪へて居るのであつた。

ロモラが始めて作の中に出て來るのは彼女が十八歳になつた少女盛りの時からである。彼女の十八年の生活は薄幸であつた。甘へても見たい母の愛なく語らひ興ずべき兄も去り、獨り苛立つ老年の父を娛りしつゝ、冷たい大理石の古器物や、汚垢や黴でしめつぽくなつた卷物の間に埋れて、明るい野邊の春も夏の喜びも全くよそにして、男子の受くべき教育を委く受けた。黎明の天使がばら色の翼をひろく廣げて朝が來ると、彼女は陰氣な一室にあつて、父の膝許に坐を占めては、父がぽつ／＼と杜絶れ勝に言ひ言づる思想を書きとめる書記の役をつとめた。そして合間々々には父の手をとり室の中を彼方此方と導きつゝ、彼がいち／＼過去の熟知物に手を觸れて見ては感慨無量に默想して居るのを辛抱強く待つて居るのであつた。かうして毎日同じ單調を破る何の事件も起る事なく、物倦い一日が暮れては明けるのであつた。

深い寂寥と倦怠とに長く閉された、この一室に、或時燕のやうなすばしつこい長閑な春の喜びが始まつた。それはシシリー島から漂流したといふ、廿三になつた。美しい希臘青年の來訪であつた。彼は、それを見る眼が誰であらうとみな等しくドナテロの像を聯想させずにはおかぬ程完全な耳の上の捲毛と理想的な美貌との所有者であつた。彼も亦蘊奥を極めた學者に教養せられたので學識博く、各國語に長

じ、加ふるに外交術に特に欠けて居た。ロモラの父バルドーはこのティトー青年といたく共鳴し、生別した息子の生れ代りの様にも離し難なく感じたので、遂に彼はその後毎日通つてロモラの仕事に代る事となつた。ロモラが年若い異性を親しく見たのはこの時が始めてゞあつた。けれども彼女は頭を高く擧げたまゝ、冷靜な權威ある女星の如くに、どこか傲慢な青白い顔を向けて彼を迎へた。然し彼女の冷たいその傲慢は決して生來の物ではなく、ごく僅かな熱情乃至は愛憐の顫動にでも會へば直ちに彼女の畏敬的威壓的態度は解けて、熱情的な優しい女性になり得る素質を多分に示して居たのだ。それは彼女が老父の趣味以外には全然の世間知らずな、純な少女心の淡白に根ざして居たのだと解決するのが妥當であらう。だから彼女が美しいティトー青年から訴へる樣な瞳を向けられた時、凍り固められた白雪の縁が光の温みでほぐれて行く樣な紅潮が、ほんの瞬間、蠟石のやうな頬に上つたのであつた。

外界の刺戟とはまるで沒交渉な、一世紀も昔に溯つた樣なバルドーの書齋で新しい助手を得たよろこびに元氣と熱心とを盛り返した學者の口述が捗つて行くと同時に、二人の若い異性の魂は互に愛を感じつゝ接近して行つた。そして到々ロモラは白い薄衣に黄金の帶をしめて、背高い白百合の樣な清楚な裝ひでこの美青年と結婚した。これよりさきサン・マルコ寺院に隱遁して居た彼女の兄フラ・ルーカはその臨終の床から、彼女の不幸な結婚生活の幻を三度まで見たといつて、フラ・ギロラモ・サヴヲノローラの目前で彼女に警告を與へ、一の十字架を與へたのであつた。斷食と苦行とのために死に行くものゝ狂想に過ぎないとその時輕視したフラ・ルーカの豫言が果して事實となつて現れた事を彼女は後になつて思ひ當つたのである。

その後一年半に亘る既婚生活は樂しかつた。がティトーは追々に外的位置を占めて外出が多く、父バルドーの畢生の事業を完成する事から遠ざかつて

行く間に、この老學者は遂に頓死して了つた。

或晩ティトーは常になくおそく戻つて來た。そしていつもの樣子とは異つて妙にそはそはしたちぐはぐな行動を多くした。ロモラはそれを一日の過勞の結果と解釋して、柔しく勞をねぎらひ乍ら片手を彼の胸の上に投げ懸けて、片手で彼の毛髮を掻き撫で樣とした。とたんに固い鐵の樣なものが手に觸れたので、彼女は驚いて飛び退いた。

「まあ何やら鐵の樣に固い物が、何を下に召して被入るの？」

「鐵だよ、鎖帷子だ」

「では何か思ひ掛けない危險な事がありましたの？當座だけで直きにお脱ぎになるのでせうね」

「いゝや、是からいつ迄かわからないけれど、着て居なければならないと思ふ」

それからいろ／＼と說明をしたけれど腑に落ちぬ點が多かつた。彼女は不審に思ひつゝも良人の語るを好まぬ事柄を深く追求もしなかつたけれど、彼等の生活にギャップの分子が入り込んだのは此時からであつた。この日ティトーは自分と對手の者と丈しか知らない隱れた過去の罪惡を、危く公衆の前で曝露され樣としたので、その時は詭辯を弄して瞞き終ほせたものゝ、死んだ筈の嘗人（彼の養父）が生き殘つて居るのを知つた時に、軈て加へらるべき復讐の危害を恐れ始めたのである。その時彼が兇猛な一老人に襟首を摑まれて恐怖に戰いた表情を示した所を、早くも畫工の一人にスケッチされて了つた事を知らなかつた。運命はいつでも惡戲を好むものと見える。何故なら偶然にも此のスケッチが或機會にロモラの眼に示される樣に仕組まれて了つたから。彼女はそれを見ると一層疑惑を深くしたが、只偶然の事件のスケッチに過ぎないのだとの畫工の辯明を以て我心となさうと努力した。良人への信賴を裏切る事、亦良人を疑ひ見る事は恥づべき事だと思つた。

「良人がこだはりなしに話の出來ない物を、向から言ひ出すのでない限りこつちから問ふ事はしてなら

ない、夫は彼に對する私の信頼を裏切ることであるから」

續いて第二の隙が生じた。ティトーは絶えず背後に迫る様な脅迫觀念に脅かされて、フロレンスを去つて他に行くべくバルドーの圖書室全部を竊に賣却したのであつた。この事をロモラに言明した時、バーディ族の間を流るゝ義憤の血管は一時に奔流した。彼女は生れて始めて憤怒の激しい顏色を見せて威丈高に立ち塞がつた。

「お賣りになつた？　あなたは反謀人です。父は貴郎も私も共に信頼して居たのです。もし父が貴郎を誠實のない人だと見拔いたら決して圖書室を貴郎になんぞ任せるのではなかつたでせう。貴郎は父の耳が聞えず、手が固く動かなかつたのを確めるや、彼から掠奪したのです、いゝえ、夫許りぢやあません。貴郎はまだ他に、誰か死んで居ない人をも掠奪したのでせう。それが貴郎の秘密に武裝して居る理由なの　せう。」

ティトーは彼女の一時の憤りを時間の推移に止せ様とした。時が經てば彼女は亦以前の從順なロモラとなるだらう。そしてぢきに自分を赦して呉れるだらうと。然し彼女は容易に赦しを與へぬ女性であつた。彼女の愛は、正當な批判を超越したありがちな妻としての最も美しい魅惑である只縋り附かうとするの本能ではなかつた。彼女の理智と聰明とは決して盲目的な愛の故を以て妥協を申込まなかつた。彼女はあくまで虚僞を憎み、嫌惡した。そしてティトーを侮蔑した。彼女のこの感情は終生償ひ得られなかつた。峻嚴なるストイック哲學の感化は、深くその高潔を尊ぶ精神が、彼女に依つてよく live up されたのである。彼女は我が尊敬し得ぬ者、信頼し得ぬ者と同棲する事を潔しとせずに、或時ティトーが長途の旅行に出たあとで、フロレンスを逃れ出様とした。その餘生を高尚ならしむべく彼女は世界中で一番に教養のあるヴェニスの女學者の許へ趨つて今後の指導を求め様としたのである。然しフロレン

スの町外れで擦れ違つたサヴヲノローラのために彼女は懇々と說破せられ、彼女自身も自ら自由であると思ひ上つて居る負債者程卑屈な者はない事を悟つて、再び歸途に就いた。テイトーはこの事に就ては何も知る所がなく、ロモラから蒙る一種の壓迫に堪へ切れずに家を空けてはいま一人の女の許へ行つた其家には愛らしい二人の子供迄あつて彼を歡迎するのであつた。

　これより二年後に我々はロモラがフロレンスの貧民の間に施しをなしつゝ眼に見ゆるマドンナとして窮民の母として愛慕されて居るのを見る。彼女は短い月日の間に燃燒し盡して了つた幸福を再び追はうとはせず、自餘の幸福のために奉仕して居るのである。一方テイトーは饅上りに政變を利用しては位置を獲得しつゝ、好運のみが彼を惠んで居るかの如くに立身出世をして行つた。ロモラとの外形的な同棲は未だ持續して居たけれど、二人は互に自他の興味には無交渉のまゝ、別々な歩みを續けて行つた。或時彼女は施しを拒んだ一人の乞食（それは彼女をテイトーの妻であると知つて居たかの復讐者）からテイトーの過去の罪惡と、更に一つ隠し妻のある事とを告げられた。彼女の高貴なる血は決してかゝる卑しむべき事を許さなかつた。もし彼女が法律上の正妻でないとしたら、サヴヲノローラの言つた既婚の羈絆と責務との過ぎる重荷から脱する事が能るかもしれない。然し差し自分が正當な妻であつて後にも、一人の所謂「少し足らぬ」田舎女と結婚したといふなら、夫は餘に苛酷に、彼女の矜持を侮辱し蹂躙した背徳行爲である。いづれにしても彼女の惱みは深かつた。ふとした機會から彼女はテッサ（も一人の妻）の家に到つて、彼女自身の方が正當な妻である事が確められた。そして胸一杯の屈辱と悲憤とに痛む胸を抱いて、黄金色の捲毛を一束切つておいたなり戻つて來た。テイトーはテッサの秘密を知られた後にも最後の妥協を今一度申出たが、ロモラは未練氣もなくきつぱり是を拒けて居る。

「もう遲いです。一度欺瞞が生れたら疑惑を殺す事は出來ません。私はもう何もかも皆すつかり知つて居るのです。あの貴郎にとつて父となるべき年老のことも。それから貴郎が私と父との信頼を裏切つた事はさして大事ではないにしても、この老人に關する眞理をお拒みなさる限り、私達の間には恐怖が生じるのです。私達の結合も詐りなんです。恰度一寸したまね事が遂に神聖な結婚となつた詐りと同じ様に」

この後ロモラは最も愛する敎父の處刑さるゝを見、師事せるサヴヲノローラの火刑臺に上るのを目擊した。またテイトーがかのつけねらふ老兒漢と重なり合つて死せる事をも聞いた。薄倖なる彼女は只一人生き殘り、殘餘の生涯を不運なテッサ親子を引きとつて、二人の小供等に最も好かれ乍ら平和に暮して居る。

私は餘りに多くロモラに就て冗言を費した。が要するにロモラは、非常にはつきりと區劃つけられた性格で、どんな時にでも少しのぼやけも見られない事がきびきびして嬉しい。聰明な理智に勝つた彼女であつたが故に、彼女は戀愛生活に成功しなかつたのだとする者があるなら、私は我がロモラのために辯じ度い。否、彼女の愛が聰明であつたがために、彼女は誤まれる不義の愛に墮さなかつたのだと。そして愛といふ寛大な美名の下に、もぐり込んで居る憎むべき不義、僞善、欺瞞を糺彈し精錬して愛の標準を高く引き上げたのであると。

九つの律法を遵守しても一つを破れば全部を違犯したのと同意味で、只一點に誠實を缺いたテイトーの愛が全部虛僞だつたのである。十八年の間、人を戀ふ心情を知らずに過して來た彼女が、始めて全身的な熱情を傾けて愛したその熱量が他のそれと比較してどれ丈濃厚であつたかと想像するに難くない。しかも彼女は愛を神聖視した、そして自己の衝動的な感情に訴へて公平な批判を缺く樣な愚を敢てしな

かつた。聰明な愛は一分の間隙をも許容さずに、all or nothing を強要したのである。そして一切を得られなかつたが故に、虚無を採つたのであるからと。

おだてられて

おだてられて足を少しでも浮かして平氣でゐるものには大きなことは出來ない。一たい浮かれるものに大きな事は出來ない。おだてられゝば益々落着き、ほめられゝば益々謙遜になり、惡口を云はれるとなほ勇氣を起すものでないと面白くない。

—武者小路氏の著書より—

幹事養成科創設

一、場所　日本基督敎女子青年會本部內

一、期間　大正十年四月中旬より同七月下旬迄

一、學課　聖書、英語、社會學、青年會歷史等

一、資格

イ　福音主義敎會の信者

ロ　專門學校卒業若くは高等女學校卒業以上の學力あり相等に英語の知識を有する者

ハ　心身共に健全にて人々と共働し得る者（年齡廿歲より卅歲まで）

詳細は本部宛に御照會下され度候

希望者は大至急御申込あり度候

東京市神田區錦町一丁目十六番地

日本基督敎女子青年會本部

電話神田三六五二

ネルソン將軍の最後の祈り

河井道子

最近の歐洲歴史を見ますといろ〳〵異つた地圖が加へられて居るので、如何に世の中が變遷しつゝあるかを知り驚く次第です。先づ墺地利國の一九一四年頃の地圖と今日のものとを比較すると、如何にその國が縮小されたかといふ事に驚かざるを得ません
聖羅馬帝國、といふて英國と露西亞とを除く外全歐洲に渡つて墺國が權力を振つた黄金時代は、想像することさへ困難な程、今は見るかげもない有樣です。國民全體は飢渇に瀕つて居る上に、種々の病氣が流行して、人々はドシ〳〵死んで行くといふ噂はいくら聞いても信じられませんでした。それで私は昨年の八月上旬に維也に實地を視察する爲に參つたのです。一行は男子四名と女子は私だけであつてそれが五ケ國を代表した者共であつた事も愉快でした。維也市から約二時間程手前の所に日曜の山といふ所があります。此所には聖書の中にある「山の上の城はかくるゝ事なし」との句を思ひ出させるやうな立派な教會が山の絶頂に建てられてあり、附近は一切平原や畑であります。此山に登つて行きますと其教會を取圍んで約卅軒程の家がありました。教會堂は實に立派なもので傳說によると之は十一世紀に初めて其所に建設され、十七世紀に及んで再興したものであつて、巡禮の教會堂といはれて居ります。丁度日本の四國四十八ケ所詣りのやうに、墺國には全國に渡つていくつといふ教會堂が、特別に巡禮の爲に建てられ、其祭日の前後は大阪の大師さんの廿

一日の祭日のやうに、非常な賑はひを呈したものだそうです。所が舊教がやゝ衰へかゝり國勢も次いで弱くなり初めてから、之等の立派な建物も、殆人跡を絶つやうになりました。之加に戰爭の爲、今日では全くさびれた所となつて終つて居ります。さて其敎會堂の周圍の二三十軒の家といふのは、大多數土産物等を賣る店で、其中に可成大きな旅館もあり、皆巡禮の爲に建てられたものでしたが、近頃は此旅館を墺國キリスト敎青年會學生團が極く安く、三ケ年借り受けて彼等の働の爲に用ひて居ります。

私共の一行が其所へ着いたのは八月八日で丁度眞夏でしたが、景色のよいこと、風通りの涼しさ、永久に記憶に止つて居る事でせう。此家には維也大學の學生が七十數名集つて居つて、其中三名は女學生でした。彼等は萬國キリスト敎學生同盟會の援助によりてそこに保養旁々修養　爲に招待された人達です。彼等の中新敎徒は僅數人に過ぎません。他は舊敎徒、佛敎徒、無神論者、懷疑者等で、二人のキリスト敎の敎授が彼等を指導して熱心に働いて居られました。其人達はどんなものを食して居るかを一寸申上ませう。朝飯はブラックコーヒーと黒パン一片、晝は豆一皿と黒パン一片、晩はキャベツと芋のステユーと黒パン一片で、一週間に二回脂肪の爲に、僅の肉を與へられるとのことでした。然し之だけの食糧も眞夏で野菜の多い時でありますから得られるので、冬は非常に困る事であらうと掛りの人が云ふて居られました。此事實だけでも墺國學生の窮狀を十分推察することが出來るではありませんか。

次に維也市に行きますと各小學校に新に大きな臺所が設置され、晝食を只で供するやうな設備になつて居りました。而して其費用は全部アメリカの救濟會から出て居るのであつて、一日廿萬から卅萬の間の子供が、斯くして養はれて居るのです。其他赤子は母に伴れられ、一週間分の食糧を供與されて居る家が六十軒、之は英米の友會敎徒の人々に依つてなされて居る仕事なのであります。

さて斯る有様の中、殊に窮狀に陷つて居るのは學生と大學敎授連とです。彼等は勞働したくも働く場所がありません。御承知の通り戰爭の結果國土が極く狹くなり、おまけに殘つた土地は不耗であつたり山嶽であつたりして牧畜を養ふ牧草さへ不充分な有樣ですから、農業を營む事は到底不可能です。それに僅の畑地を耕す爲には在來の農夫があり餘る程居ります。然らば工業はといふに、私が汽車の窓から眺めた煙突は僅に廿數本で、其中かすかながらでも煙を吐いて居るのは二三本に過ぎませんでした。之では何萬といふ學生の働く餘地があらう筈はありません。此慘狀を、大阪の梅田附近に黑煙を吐いて居る五十幾個の煙突の有樣と比較して御覽なさい。何たる差ではありませんか。而も大阪の人々は近來の不景氣をくどきながら靑息をついて居ります。

維也は世界中一二を爭ふ大學地であるといふ事は人々の知つて居る事で、殊に醫學に於ては有名な學者を多く出し、日本でも此學府に學んだ先生方が多いことであります。過日日本の醫師達が墺國の大學敎授救濟の爲醵金せられ、大使を經て斯の地に送金せられたといふのも此爲であらうと思ひます。大學の他、美術、音樂、工業の專門學校も多くありますから學生の數は夥しいものです。其中には戰爭以前は墺國人であつたが、戰後國の分割と共に國籍は他國人となつて居る學生達も多く居ります。然し是等の學生は働くには場所がなく學問を續けて行くには衣食なき有樣で如何とも致し方がありません。昨夏私の遭遇した一學生は自國の有樣を語りながら、「斯くお話する私も、此冬を越す事が出來るかどうかわかりません」と云ふて居りました。凡てに事欠く彼等の冬季中の慘狀は察するに餘りある次第です斯る學生の窮狀を見出して之が救濟の道を開き始めたのが先に申上げた萬國キリスト敎學生同盟會の幹事共であります。之等の人々の聲によつて、種々の方面に運動が開始され、特に學生と敎授連の爲め醵金せられた結果、彼等の日用品だけは或程度迄供與

せられる事となりました。昨年の夏は大學の中に切符交換所が設けられ、朝飯は學生に限り供與せらるゝ設備も出來て居ましたが、之は到底多くのものには行き渡り得ません。其地三ケ所にステユーデントキチンが設置せられ大學及び專門學校の捺印ある紙片を有つて居るものには實費の十分ノ一の代價で、食事を供して居りましたが、之とても學生の全般に渡つての救助とはならないのです。

彼等は何故外國に逃れないか、といふ質問を時々きゝます。然し一日一日の食物さへないものがどうして旅費を調へ得ませうか。それだけの餘裕があれば、其日の生命を保つ事に用ひねばなりません。或年若き娘は兄にどうかして健康を保持するだけの食物を與へたい。もし自分が居なければ二人分（それでも決して充分ではないが）を供する事が出來やうと、書置きを殘して何所へか去つて終つたといふ悲慘な物語もあります。

さて此窮狀に對してアメリカでは御承知の通り食糧卿フーバー氏の指導の下に、隨分大仕掛の墺國救濟法が講ぜられて居ります。之は實に國際的の運動となつて居るのです。斯る學府と其所に居る數萬の學生及び數百の敎授を救助する事は、世界の學府と學者とを救ふわけであります。我々が自己の安らかな境遇を感謝し一層眞面目なる努力を各自のつとめに對して爲すと同時に、眞に彼等のなやみを我がなやみとし、彼等の悲しみを我が悲しみとして、祈り考へ日計り度きものではありませんか。此所に私はネルソン將軍の最後の祈禱を附記し諸姉と共に此祈の中にある「勝利の後に人道を」の一句を殊に味ひ度く思ふのであります。

"May the great God, Whom I worship, grant to my Country, and for the benefit of Europe in general, a great and glorious victory; and may no misconduct in any one tarnish it; and may HUMANITY AFTER VICTORY be the predominant feature in the British Fleet. For myself, individually, I commit my life to Him, Who made me, and may His blessing light upon my endeavours for serving my Country faithfully. To Him I resign myself and the just cause which is intrusted to me to defend.—*Amen, Amen, Amen.*

雑感

浅井治子

○

拙い言葉と云ひまはしとで、と切れと切れに云つた言葉でも、眞心からの感を云へた時は、他人の耳に如何響かうと之程嬉しい事はない。之に反してどんなにすら〳〵と巧みに言ひまはせた時でも、是れが他人の思想の假着であつたり、差程痛切に實感して居もしない事を云つた場合、後の心苦しさと淋しさとはたとへやうもない。自分の全生活が、内も外も神にも他人にも自己にも眞に正直であり度いと此頃つく〳〵思ふ。

○

群衆の中にある時も、密室に一人ある時も、キリストの現在の意識を同樣にはつきりと經驗しながら生活したい。世評や、他人に對する思わくや自己に就ての計算（之は何よりも卑しい事だが）等といふものが一切影を絶つ迄神の聖旨がいつもいつも自分の歩む道にはつきりと示されるやうでありたい。自分を支配するものは世でも人でも勿論低い自己でもなく、唯聖旨のみの生涯を歩み續けたいものである。

○

人の前で祈るといふ事にはなか〳〵危險が多い。それはやゝもすれば他人に對する説教になつたり時としては祈の中にいやみやあてこすりを並べ立てられたりする事もある。人が聴いて居るといふ意識は神のみを一心に仰ぎ望む熱心に食ひ盡されて終はねばならぬ。群衆の中に立つ時も、密室に一人跪く時も、祈りの題目こそ違へ、心の態度は何物にも捕はれず唯神をのみ見上げて、同樣に純眞でなければなるまい。

○

私は一人の科學者に遭遇つた。彼は日本の最高學府を優秀な成績で出た青年である。

「科學を通じて私は神を發見した。我々の研究をつ

きつめた所、其所に神の存在をさとらずには居られぬ」と彼は云ふ。

又私は一人の若き婦人を知つた。彼女は藝術家と云はれる仲間の一人である。

「私は畫筆を握る時、畫布に向ふ瞬間、湧き出て來る祈心を止める事が出來ない。私は祈を以て書き初め祈を以て續け又祈を以て終る」と彼女は云ふ。

人が一つの事に眞劍になる時、彼の心は必神に到り神に向つて叫ばずには居られぬのであらう。たとへそれが科學でも藝術でも又は人生問題であらうとも。一切のものゝ極致は宗教であるといひ度い。

○

一友の美しき祈は私を勵ました。其祈りは斯うである。

「主ようめ草になつても捨てられても怖れずに主の御顏のみ仰がせて下さい。どんな小い人の心にもしぼませる種を與へませぬやう私を導いて下さいわがあるよりもよく見せ樣とする前に、主の悲しみを思はしめて下さい。自分を餘りに愛する爲に自己發展のためにのみ努力して人を押しのける樣な心を私から取り除けて下さい。世の敗者であつても喜びます」

世の所謂成功者といふものや自分の周圍に時めく人々の樣子等を考へて見て私は恐しい思ひがした。

「友よ、私も敗者となる事をいとひません。けれどそれは人の前に、世の前にです。御同樣神の前に勝者となり得るやう、キリストも共に歌ひ得給ふ凱歌を歌ひ得るやう努めませう」

○

個人の生活にも團體のそれにも妥協は最もおそろしいものゝ一つである。それは墮落の第一歩であらう。之は實に廣き門である、一時は都合がよい。苦しまずにすむ、けれど我々の靈ひに、團體の精神に致命的な傷を負はせるものは之である。

「融通のきかないかたつくるしい人」といはれても臨機應變家と評されるよりはましだ。此處にも亦量か質かの問題が起り得ると思ふ。

本部便り

□工業部幹事ミセスウッドを迎へ手不足の本部は大喜びでございます。同幹事は目下活動の準備として此方面の調査研究に努めて居られます。

□中央委員會の決議により加州問題の研究を初めることになりました。其第一回を四月一日二日神田北神保町の東京青年會で開きます。今後尚引續き研究の歩を進め將來に於ては何か具體的な運動を始め度き希望を有つて居ります。此爲特に左の諸氏は委員として選定せられました。志立タキ子(長)辻まつ子三谷民子、長谷川喜多子、星野愛子氏。

□過日澁谷の福田會にポーランドの兒童を訪問いたしました。若し何が當會で御助けする事があればさせて貰ひ度く思ひましたので。十七歳を頭に三歳迄の子供等の顔にはいづれも小い胸の奥底迄喰ひ入つた悲しみの調子があらはれて居ります。之は第四回目のアメリカ渡航の一行で總數百廿六名。先發の二百人餘を合せて三百餘の兒童は二年間アメリカで養育され、其間にポーランド兒童救濟會は自國に相當の建物と準備とを整へて彼らを呼びよせる計畫だそうです。日本滯在中の費用(一日一人七拾錢)は全部日本赤十字社が負擔するそうでして今の所差當りの必要は之といつて別にないとの事でした。

□中部歐洲の學生達の身の上も私共の念頭をはなれません。何かしなければならないと思ひます。餘りものがあれば與へる、さもなければ先づ自分を満足させる事が先、とこんなさもしい氣持は捨て度いものです。私共は飢えても居りません。然し彼等は死に瀕して居ります。私共がなす僅か許りの犠牲は實に彼等の生命を救ふ手段となる事を御憶え下さい。いづれ其内皆様に御盡力を御願する時があらうと思ひます。(淺井)

横濱女子青年會報告

○宗教部、昨年末より計畫中なりし河井道子先生の

婦人講演會を三月六日フェリス女學校講堂に於て開く。來會者三百名。會衆は「久し振りでこんな滿足出來る御話を伺ひました」「目が覺めたやうです」等と喜びに充され四時半散會す。

○教育部　來る三月廿八日第三學期修業式を兼ね小文學會を催す。當日は英語科夜學部第一回卒業生に證書授與する筈なり。

○移民部、神奈川縣廳の建築にかゝる移民講習所の落成も近きにありて一同大なる希待を有てり。

○クラブ、(一)婦人クラブ、三月九日例會をメンデルソン夫人方に開く。當日は夫人の實地につき西洋家庭の詳き御説明ありたり。(二)BGクラブ。三月十一日例會を開き井上友子女史の婦人衞生につき有益なる御話あり。來會者六十五名。(三)ルヰズクラブ。三月十七日例會を開き、四月専問學校に入學の爲上京の豫定なる會員の送別會となす。

○歡迎會、三月五日午後四時より六時迄山手本會外人寄宿舍に於て河井先生及寄宿舍々監ミセスジョーダンの歡迎茶話會を開く。來會者二百名餘。(横濱氏報)

神戸基督教女子青年會報告

去る八日より本部の河井、スカット兩總幹事の御來援あり。爰に本會館資金募集の爲に御奔走を願つて居ります。此財界不振の時に餘り無謀の樣に考へられますが信仰を以て一日も早く會館を得んと努力して居ります、皆樣の御祈のはしにお加へ下さい。

△二月廿七日には市内各學校の教師生徒を御招きし萬國學生祈禱日を守り織田やす子女史の學生に最も適切なる御話がありました。

△三月七日並に十三日に前日には會員次には教育部に出入の姉妹を中心にして二度の講演會を開き河井幹事の歐米の御土産話を承り本會の二階は兩度共空席なきまでの盛會でした。

木犀クラブ、プリンセクラブは來る四月中旬土地資金の爲に催しますバサーの爲に仕事會をして居ります、もしどなたでも何かお思つきのやさしく出來

るものでもありましたら御知らせ下さい。(大存氏報)

靜岡英和女學校靑年會報告

先月第一の例會にて新役員を選擧致しましたから御知らせいたします。

會長　鈴木きく　副會長　山本まつ
書記　片岡よね　副書記　山本まつ
會計　室賀えい　會計　酒井ゆき
宗敎部　小柳ひさ　誘導部　野崎すみ
矯風部　太田とめ　社交部　佐々田あい
仕事部　伊澤すみ　販賣部　白井房子

東洋英和女學校靑年會報告

三月二日役員の改選をなし、過去一ヶ年の總報告がございました。

一會計報告。自九年三月至十年二月
一超高　一一〇、六八
一入金　六七四、二八
內譯　會費三九、九六　販賣部仕事部一九九、四〇
音樂會四二八、二〇　寄附其他雜收入一六、七二
一出金　七〇二、二二五
內譯　各部費用一一七、八三　文學會二〇、〇〇
外村氏傳道義會及婦人ホームへ　二〇、〇〇
本部負擔金三二、〇〇クリスマス寄附一六〇、〇〇
夏期修養會敷地購入資金として本部ニ二三〇、〇〇
修養會代員　五六、五六　輿望館　二五、〇〇
支那傳道　一〇、〇〇　工女親睦會三、一九五
雜誌代(女子靑年界)　一七、六四

◎特筆すべき事項は
一憲法改正後之に從ひて事務を取りしこと。(六月)
一夏期修養會に六名の代員を送りし事(但一名は病氣につき缺席)(七月)
一修養會敷地購入資金寄附の爲クリスマスカンサートを開き純益二百三十圓を本部に寄附せし事(十二月)
一社交部長の變更、販賣部長の永眠等會にとりて打擊ありしも適當なる後任者を得し事。

葉書便り

○　秋田市　藤田　てい

十一月當地に轉任いたし雪の國にて平和な冬を暮し居り候。秋田の樣な町にも何時かは女子青年會の支部を見る時も御座候事と信じ前途多事の感じ致し候御健康を祈り上候。

○　浦鹽　脇　みさ子

當地教會の婦人會も日に盛んになりまして昨年の冬よりは當地在住の鮮人と融和の途を講じ此方面に新なる働を始めました。言葉は不通でも互にキリストの愛を以て親しめば何の疑ひもなく、心置なくお交りいたす事が出來ます。鮮人の教會は誠に大きく、學校を假の集會所にあて置きクリスマスの祝賀會などには四五百人も集りました。其信仰は誠に私共は恥かしい樣でございます。此事につきては又別に御報告を申上いろ〳〵と御指導を仰がねばならぬ事と存じます。（後略）

○　横濱　横澤　つさ

人の一生は面白いものです。基督者は他人の見えぬ事が見え、他の人の苦しまぬ事を苦しみます。然し私は之を不幸とは決して思ひません。感謝します。凡ての事の中に聖旨を認め、私共の周圍に起り來る一切の事が私共をキリストらしくする手段となるやうに思ひます。考へれば考へる程、祈れば祈る程人生は意味あるものとなつて來ます。（後略）

○　横濱　上野　とし

パームサンデーの午後二時。強い風が吹いて居ります。「基督の如く」を味ひながらふとこの葉書を書く氣になりました「最も十字架を負ふ必要のある時は得意の時だ」といふ言葉は何でもない事に得意になり易い心に強く響いて居ます。

[illegible]津の井上さんから「三月の女子青年界を興味を以て味ひつゝ讀みました。私は愛讀するものゝ一とつして此雜誌を樂んで待ちます三月號も昨日着き次第直ぐに半分讀みました」といふ手紙が來ました。

○　東京　瀧澤　雪子

私の第一の友であり慰藉者である女子青年界、月毎に溢るゝ許りの喜びに充されて拜見いたして居ります。現實の世の淺ましさに日々かよわい心を傷つけられ痛められる弱い者も御誌によつて如何許り慰められ鞭打たれる事でございませう。教會で聖おしへを伺ふ時と此御本を繙く時とは私にとりまして最も幸福な時でございます。

三月の讀書から

□ロマ書一ノ三、四の主意はエスの人性神性の具有を示すにあるは明である。而して此事は彼が救主たるべく必須の事であつて、從つて我等の救拯の爲に必須のことである。頭腦の上にのみ福音を悟了せんとする人には之ば躓きの石である。然しその全心魂をあげて救拯の實得と生命の分與とにあづからんと志せる惱める魂にとりては實にまことの天來の福音である。

―聖書の研究より―

□自分の恥づゝ所は他人の賞讃を博さん爲に自分の思つた事を思はない顔をしたり思はない事を思つた顔をしたり、感じたことを感じない顔したり感じない事を感じた顔したりすることである。自分は書く時、我はかく見、かく感じ、かく思へりと常にいひ得るものを書く事を唯一のほこりとする。斯る自分のゆく極致は宗教であらればならぬ。

□自分達は木地を出すことを恐れてはいけない木地の出ない事を恐れなければいけない。

―以上武者小路氏の著書より―

□信仰のことを理智でのみ判くとは如何なる心であるか。科學的不可解は直ちに宗教的不合理を意味するだらうか。信仰も常に理智の圏内に退かねばならぬであらうか。凡ての信徒は何故信仰がそれ自身の世界を持つといひ切れないのであるか。

□人は彼自身の智慧を空しくするにつれて、神の智慧に交るのである。淨さはいつも深さである。心が彼自らの哲理を最も少く持つ時彼は神の哲理を最も厚く保たれるのである。

―柳宗説氏著宗教的奇蹟の序言より―

□私が復活を信じまするのは、私が神の大能を信ずるからであります。宇宙と其中にある凡ての物を造り、又人を造り人の内に宿る靈魂を造つた神は、容易に死者を甦らす事が出

來ると信ずるからでございます。

―內村全集より―

寄附金（本部事業費として）

金三十圓ハード氏　金百圓ジョンソン氏
金五圓　脇みす氏　金三圓五十錢松田縫氏
金五圓　大平耕成氏

合計　百四十三圓五十錢也

雜誌代領收（十年二月廿日より同三月廿日まで）

渡邊　すみ　九ノ十—十ノ九
大江　政衞　十ノ一—十ノ十二
永田　喜和　十ノ一—十ノ十二
下坂　くに　九ノ十二—十一ノ十二
齋藤みどり　十ノ一—十ノ十二
山田　ソヨ　九ノ八—十ノ七
丸茂　よし　十ノ一—十ノ十二
小谷　正子　十ノ三—十一ノ二
武田　淸　十ノ二—十一ノ一
益富　きの　十ノ二—十一ノ一
恩地　美　九ノ十一—十ノ十
河本　千春　九ノ十一—十ノ十
新渡戸琴　九ノ十—十ノ九
アトキンソン　九ノ九—十ノ八
　　　　　　　九ノ十—十ノ九
安東　康　九ノ十一—十ノ十
遺愛青年會　三月分
宗像　正子　十ノ一—十ノ十二
雪岡　たへ　十ノ二—十一ノ一
內藤きぬえ　十ノ二—十一ノ一
小林　しげ　十ノ二—十一

叶井　かよ　十ノ二—十一ノ一
石塚　忍　十ノ一—十ノ十二
上野　秀　十ノ二—十一ノ一
宮澤　ちゑ　十ノ十一—十一ノ十
福崎　よね　十ノ三—十一ノ二
忠隈　千賀　十ノ十一—十一ノ十
瀧澤　ゆき　十ノ二—十一ノ一
橫濱青年會　二月分
ウヰルミナ青年會　十ノ二—十一ノ一
近藤　なみ　九ノ十一—十ノ十
藤澤　きん　九ノ十二—十ノ十一
田坂　靜代　十ノ一—十ノ十二
鈴木　とく　九ノ九—十ノ二
田丸　猛　九ノ七—十ノ六
田島　秀　九ノ十二—十ノ十一
石田　敏　十ノ二—十一ノ一
松山しのぶ　九ノ九—十ノ八
近藤　百代　十ノ二—十一ノ一
恩川　房代　十ノ三—十一ノ二
神戸青年會　九ノ九—十ノ八
井上　ふき　九ノ十二—十ノ十一
加藤　高　十ノ二—十一ノ一
大西　絹　九ノ十—十ノ九
佐久間德惠　九ノ十—十ノ九
大儀ゆかり　九ノ十二—十ノ十一
秋庭　よし　十二月號
前原　まさ　九ノ十二—十ノ十一
石川　直　九ノ九—十ノ八
藤原　カツ　十ノ一—十ノ十二
大日　すゑ　十ノ一—十ノ十二
渡邊　千菊　九ノ十—十ノ九
土屋　やす　九ノ十一—十ノ十
小田　幸　九ノ十一—十二
木村氏　九ノ二—十一ノ一
秋庭　よし　十ノ一—十一ノ二

高橋　きみ　九ノ九—十ノ八
福井　秀　十ノ一—十ノ十二
ストラウス氏　九ノ十—十ノ九
渡邊　タキ　十ノ一—十ノ十二
大井　笑　九ノ十二—十ノ十一
松井　留　九ノ十一—十ノ十
新　武　十ノ三—十一ノ二
岩倉　梅　九ノ十—十ノ九
石井　滋代　九ノ十一—十ノ十
上野　クメ　十ノ三—十一ノ二
中村　サダ　九ノ十二—十一ノ十一
阿部　エイ　十ノ三—十一ノ二
同志社青年會　九ノ八—十ノ二
宮城青年會　十ノ二迄
伊東　選子　十ノ一—十ノ十二
佐藤　たか　九ノ九—十ノ八
金子　定子　九ノ十一—十ノ十
小澤　とよ　九ノ十一—十ノ十
平山　のぶ　九ノ十二—十ノ十一
三井　すて　十ノ三—十一ノ二
豐川　孝　九ノ十二—十ノ十一
寺田　初代　九ノ十二—十ノ十一
河上　末　十ノ二—十一ノ一
渡邊　謐　九ノ十—十ノ九
太田　とみ　十ノ一—十ノ十二
山內　美卿　九ノ十一—十ノ十
石井　みね　十ノ二—十一ノ一
安東　琴　十ノ三—十一ノ二
河原　淸子　十ノ一—十ノ十二
小岸　綾子　十ノ三—十一ノ二
岩住　ゑん　九ノ十一—十ノ十
中尾　俊子　九ノ七—十ノ六
安川　泰子　九ノ十二—十ノ十一
齋藤　喜世　十ノ一—十ノ十二
島村　淸　十ノ三—十一ノ二

菊地ちづ　十ノ二―十一ノ一
遺愛青年會　九ノ十二―十ノ十二
前田アイ　十ノ一―十ノ十二
ナンエラー　九ノ十―十ノ二
黒川豊　九ノ十一―ヂノ十
橋本富路　十ノ一―十ノ十二
吉本いさ　九ノ十二―十ノ十一
プール青年會　十ノ一―十ノ十二
島崎靜　十ノ二―十一ノ一
フライ　九ノ十一―十ノ十
井上千代　十ノ十一―十一ノ十
岩崎せい　九ノ十一―十ノ十
伴薫　九ノ五―十ノ四
松田縫　十ノ二―十一ノ一
國枝壽江　十ノ二―十一ノ一
種村秀　九ノ七―十ノ六
川添ひろ　十ノ一―十ノ十二
木岡利　十ノ二―十一ノ一
藤本ますゑ　十ノ三―十一ノ二
菊島とよ　十ノ一―二月分
バプテスト女子學寮　十ノ二―十一ノ一
長谷川律　九ノ十一―十ノ十
河本はな　九ノ十二―十ノ十一
一色よね　九ノ十―十ノ九
徳澤惠子　九ノ九―十ノ八
仁木君子　九ノ十―十ノ九
菊地百合　十ノ三―十一ノ二
阿部よしを　九ノ十一―十ノ十
永澤みさ　九ノ七―十ノ六
青山ヒデ　十ノ四―十一ノ三

夏期修養會敷地購入資金寄附

金十圓　横濱青年會ルイズクラブ
金二十圓　ジョンソン氏　金五圓　城戸順子
金五十圓　宮城女學校青年會
金二十四圓二錢　九年度修養會書籍販賣部
金三十三圓十錢　岸文子
金十圓　女子英學塾青年會
金五十圓　梅光女學院青年會
金三十圓　靜岡英和女學校青年會
金二百三十圓　東洋英和女學校青年會

合計　四百六十二圓十二錢也

消息

□スコット河井兩總幹事。三月中旬關西方面の女子青年會訪問に赴れ過日歸京せられたり

□ミセス、ウッド。工業部幹事として別項記載の通り二月二十二日來朝せらる。

□渡邊百合子氏。本部幹事として四月より執務せらるゝことゝなりたり。

□岡崎小文氏。東京青年會學生部幹事なりし同氏は三月限り辭任せらる。

□中路ちか子氏。大坂青年會委員なる同氏は四月廿五日渡米の途につかる。

□神戸女子青年會總會。四月二日開催。

□村井御夫妻。(森村商會の)我が女子青年會に多大の同情を有たるゝ同氏は約一ヶ年間日本に滞在後、再び紐育に歸任せらるゝ事となり二十七日出帆せらる。

□荒木久子氏。(英學塾出身　)御主人の御赴任地なる紐育に向け三月下旬出帆せらる。

□江崎しづ子氏。以前紐育橫濱銀支店長の夫人は御歸朝後牛込東五軒町の御實家に寓居せらる。同氏は大阪女子青年會の爲盡力されたり

□三輪田良子氏。東京青年會々員なる同氏は二十七日牛込教會にて受洗せらる。

□柴ひろ子氏。東京青年會々員なる同氏は二十七日市ヶ谷教會にて受洗せらる。

摘要

△本誌代金は總て前金にて御拂込被下度、前金切れの捺印有之候節は直に御拂込被下度候

△御送金は振替にて拂込まるゝ方便利にて且間違も無之候、但手數料壹錢を御加へ下され度候。

△振替、東京、貳參七貳參番

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵稅共

	内地	海外
一部	金十五錢	金拾七錢
一年前金	壹圓五十錢	金壹圓八拾錢

廣告料

	一回揭載
一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正十年三月廿八日印刷納本
大正十年四月一日發行

發行所　神田區錦町一丁目十六番地　日本基督教女子青年會
電話 神田三六五二番
振替東京二三七二三番

發行兼編輯人　神田區錦町一丁目十六番地　河井道子
印刷人　芝區愛宕田和泉町七番地　前川吉次郎
印刷所　右同　三成舍

students in Christian service. This opened our eyes afresh and made us feel the need of a student department in this Association.

YOKOHAMA

Yokohama kept Miss Kawai busy the two days she was with us, with a board meeting and reception on Saturday, and a big meeting at Ferris School on Sunday afternoon.

Mrs. Mendelson entertained twenty-four members of the Oku Sama Club in her home, explaining foreign methods of housekeeping, answering innumerable questions, and giving advice to these young women that will be of great service to them as they make their homes places "where loveliness keeps house." They are an enthusiastic, eager, self-governing group.

Dr. Inouye came from Tokyo to give a talk to the Business Girls' Club on health and hygiene. One who has never heard her can not know with what delicacy and reverence she unfolded the facts of life, with what clearness she gave advice and warning, and how she seemed to speak to each individual girl. The girls asked questions afterwards and showed that she had set them thinking. They then were given examples of setting-up exercises which they should use every day. There was great fun as they tried to take deep breaths and hold them.

The Educational Department closes its classes by Exercises on March 23, when there will be a spelling match, dialogues, and recitations. Four girls, who have completed a two-year course in English, will be given diplomas.

Mrs. Nomura has presented the building janitor with a grand "happi" with "Y.W.C.A." on the back, and down the collar "Joshi Sei Nen Kwai" in Chinese characters. It gives us a kind of aristocratic air, we think!

The moving picture entertainment has been postponed till April, owing to the difficulty in securing a hall.

The large family of servants at the Residence, with their children, now have a regular religious service led by one of the secretaries. The policeman's wife has asked for a Bible, and the janitor has asked many questions. Altogether they make a group of sixteen!

Hibi San's work brings her in touch with an average of 150 emigrant girls a week.

demonstrated the beauty and the dignity of the old dance. The guests were of Several nationalities but of course Japanese people predominated. The guests numbered old and young, but again of course, young people predominated. Every one was enthusiastic over the evening and eager to know the date for the next one however, in the future it is felt that the number attending any one party will have to be limited to about fifty as any larger number is really too great for convenient handling either for the dinner or for the games that follow. But certain it is that these parties are meeting a very real need among the more advanced young people of Tokyo for wholesome social life and happy comradeship.

KYOTO

The girls from the Sanjo Postoffice have recently organized a Triangle Club in which they hope to carry out a threefold program. At their last meeting they made handkerchiefs which may be used as samples for a bazaar in the future. They are so enthusiastic that they have asked to come twice as often as we can take them. They are mostly girls who are independent and away from home. They have no recreation, hence their enthusiasm at coming to us.

One of ou most interes ing membership meetings was held on Wednesday February 23rd when Mrs. Imachi entertained a group of members whom she had secured. During the time spent together she explained the work of the Y.W.C.A. and asked them to think of the Association as theirs and feel that they could come to it as to their home. She asked them to cooperate in every way possible in order to make it a home for women. Other meetings of this sort are being held as often as possible now in order to acquaint our new membership with the purpose and plan of Association work.

The Dai Ichi Koto Jo Gakko has been raising funds and making plans for their higher department which they are putting in beginning in April. Miss Best has been invited io teach English conversation and will begin her work April 12th. They plan to make a three year higher course as soon as they need the third year. This school is planning to celebrate it's fiftieth anniversary next year.

KOBE

Miss Kawai and Miss Scott were invited to come to Kobe for a week, beginning March 9th. Two very good meetings were held on Thursday and Sunday, for the general membership. The remainder of their time was spent in interviews with officials and business men, cultivating their interest in the Association, preparatory to the campaign for land money which must come in the future.

Calling on all the members has been Started, with the aim of organizing in each district a club similar to the one in Harada Mura, which has proved a success.

A group of Daimaru Store girls came together recently and planned to meet regularly and later organize a club. Miss Sills and Miss Watanabe are planning meetings of other groups.

On the Students' Day of Prayer, February 27th, Miss Oda of the Congregational Bible School gave the message, which was a call for the enlistment of

listened with rapt interest as Miss Kawai told them of the activities of business women in Europe and America. This talk was the first of a series of lectures to be given for business women at Kanda.

Miss Kawai and Miss Watanabe met for lunch with the Tokyo staff and its workers on March 1st and after lunch Miss Wawai spoke in informally to the staff, inspiring them for their work as only Miss Kawai can. Miss Kawai was also with us for Board Meeting on the following Thursday at which time she told of the work being done by Association women abroad and of methods used by them. Following Board Meeting the members of the board and the staff had supper together and listened to an informal report of the work of the last few months.

Miss Ferris is giving every bit of time to Gymnasium classes that secretarial law for students of Japanese allows and the classes are certainly popular, if six nationalities in one class is any testimonial! With the opening of the new term after Easter vacation some new departures are planned and an exhibition looms not far in the distance. The girls are taking very kindly to middies and bloomers and since it has been discovered that the student hakama transforms itself into bloomers very readily they are all blossoming out in them greatly to the improvement of the work.

THE ST. JOHN CLUB OF THE Y.W.C.A.

On the last Friday in January actual work with the nurses of Tokyo started when, at the invitation of Mrs. St. John, Principal of the St. Luke's Nurses Training School, a meeting was held with the 22 girls who entered training in the fall. At the first meeting the work which the Y.W.C.A. is doing was explained and the ideas and meaning of a Club such as the girls might organize were told in detail. The girls were enthusiastic over the proposed organization and within a couple of weeks were organized with the necessary officers and committees. The name "St. John Club" was selected because of the ideals held by the founder of the famous St. John Hospital.

The great need of this group of girls is for recreation, as the Church provides for Bible study and the regular school course includes physical exercise. Hence the Club activities will be largely recreational and social. Many of the girls come from Country districts, the sights of the City are new and interesting to them, so the Club will plan for many sight seeing trips to places of interest in the City. The first of such trips was an excursion to the doll display at the Mitsukoshi Department Store the latter part of February.

Some of the girls have come from the best of homes. The entrance requirement in the St. Luke's Training School are higher than in most other Nurses training schools in this country. The girls are enthusiastic over the new Club and it looks as though this would be a very good nucleus for work with groups of nurses in other centers.

Miss Doane, of the Training School Faculty, has consented to act as Leader in the St. John Club.

Ninety people gathered at the Association for the February "Family Party." This number indicates of the popularity that these parties have attained. Sakamoto San had arranged to have this a Washington's Birthday party so the table favors were in the form of dainty pink cherry blossoms and the first event of the evening after supper was the dancing of the minuet by Miss Ferris and Miss Cunningham, Mr. Bartlett and Mr. MacKecknie, who ably

YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KWAI)

Volume 18 APRIL 1921 Number 4

NATIONAL

Miss Kawai has been very busy since her return on the 11th of February, with many invitations to speak to groups in the Associations and to public groups. On February 27th—the day of Prayer for Students of the world, she made the principal address at the joint meeting held by the Y.M.C.A. and Y.W.C.A. At the same hour Miss Watanabe spoke to the students of the four girls' schools in Yokohama.

Two meetings of the National Committee have been held in March, on account of the many items of business that needed attention after Miss Kawai arrived. Miss Kawai and Miss Scott have made one trip south.

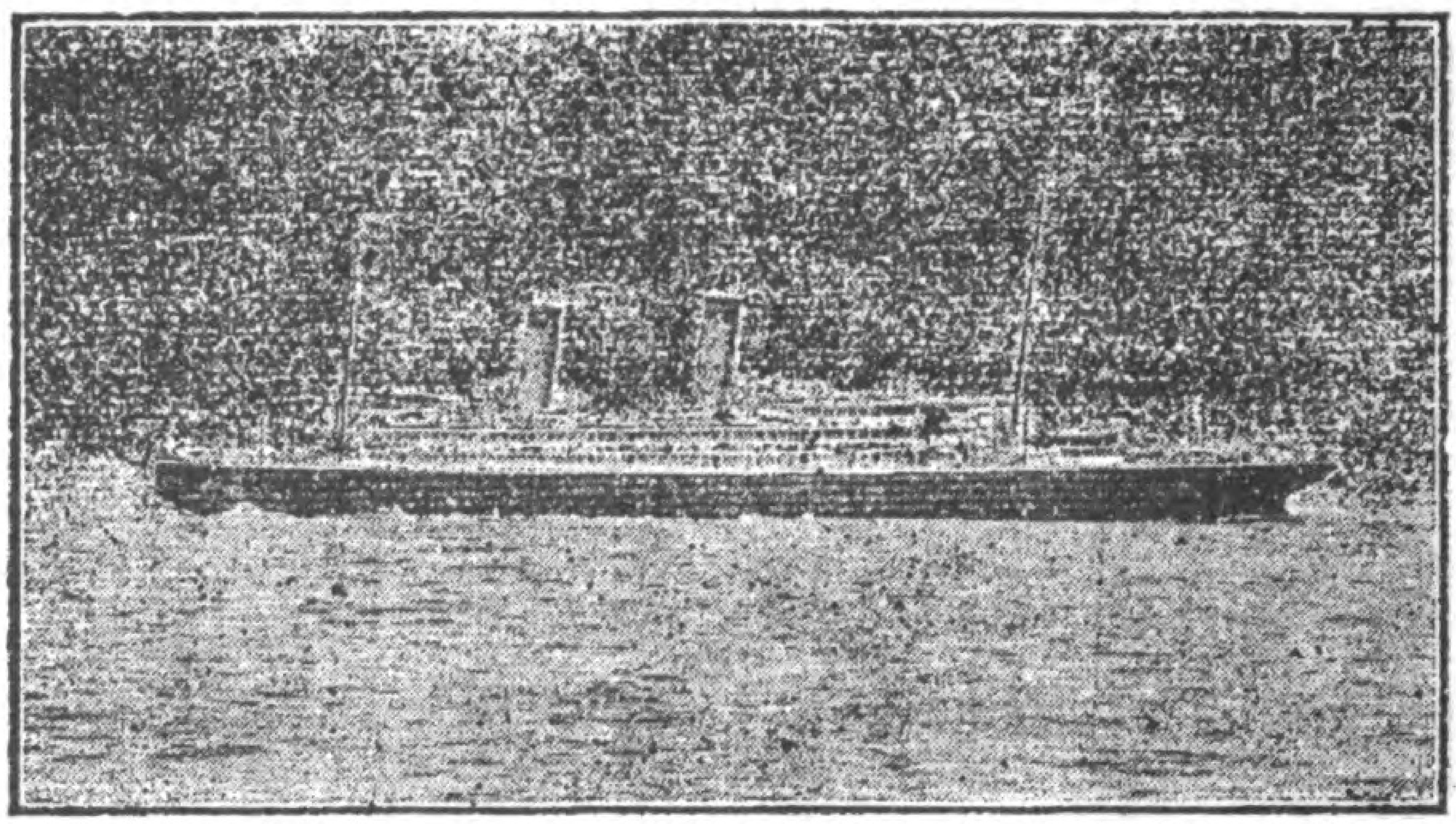
TOKYO

On the evening of March 9th at six-thirty over fifty girls from the Mitsukoshi Department store sat down to supper in the Y.W.C.A. in Kanda. The tables were most attractively decorated and soon were the scene of friendly rivalry as the girls learned to sing from table to table snatches of song and finally to unite in the one common refrain,—" We are, we are Mitsukoshi girls. And every single one of us is standing by the rest of us"—. After supper a program of music and of aesthetic dancing was enjoyed and then came the usual games and merriment. At the close of the evening the girls listened to an account of the activities open to them at the Association and to our great delight decided to return on the eve of their very next holiday for another meeting; this next meeting will probably be a pre-organization meeting for a Mitsukoshi Club organised under the general plan of the girl Reserves. This was our first venture with the girls from this big department store and we were delighted with its success. Mrs. Suzuki and Miss Lacy are making the Business Girls department of the Association a lively one but the whole staff is certainly behind their every effort to reach out to the business girls of Tokyo.

Tokyo Association has been At Home to its membership on every Thursday afternoon of the month of March. The members have been invited according to alphabetical order and are finding it interesting to meet and know each other, the Tokyo Secretaries, and more of the work of the organization to which they belong. The teas have not been largely attended but they have been worth while never the less and offer, we feel sure, one means of making the general membership more vital.

On Monday evening February 28th Miss Kawai addressed a group of business girls at the Tokyo Association. Over one hundred girls

東洋汽船株式會社



本社　東京市麴町區永樂町一丁目一番地（電話丸ノ内一五三〇、一五三一、一五三二、一五三三番）

營業所　横濱市山下町五番（電話本局四四〇〇、四四〇一、四四〇二、四四〇三、四四〇四番）

出張所（神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング。上海四川路ノース、チャイナ、インシュランス、ビルヂング。マニラ、チャコビルヂング。桑港、マーケット街六二五、マーチャンツ、ナショナル、バンク、ビルヂング。紐育、ブロードウエイ、一六五。ホノルル、アレキサンダー、ヤング、ビルヂング。）

北米航路（桑港、布哇ホノルル、横濱、神戸、長崎、上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候溫和、海上平穩なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

天洋丸	三重螺旋タービン機	排水量	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双螺旋機	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同	二〇、〇〇〇噸
波斯丸		同	九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、布哇、桑港、羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、七〇〇噸
紀洋丸	同	一七、二〇〇噸
靜洋丸	同	一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設置あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

DAISEIYA HOTEL

Honcho 6 chome, Yokohama Japan,

Phone. 953,2813. Honkyoku

御歸朝並に御渡航上に就ては萬事丁寧親切に御取扱申上候、尙御歸朝の際は 無線電信にて 御通知被下候はゞ 御出迎可仕候

歐米各國汽船乘客貨物取扱所

廣島縣海外協會指定旅館
熊本縣海外協會指定旅館

大勢屋旅館

横濱市本町六丁目(櫻木驛前)

電話本局 長 二九五三 二八一三

弊館は最新式 四層建築にして 各室電話の設備を有し 歐米視察御旅客並に御携帯品、 貨物等の取扱には最も高評を博し居り候



女子青年界第拾八巻第四號（毎月一回一日發行）
大正十年三月廿六日印刷納本 大正十年四月一日發行 明治卅七年五月七日第三種郵便物認可



一部定價二十錢